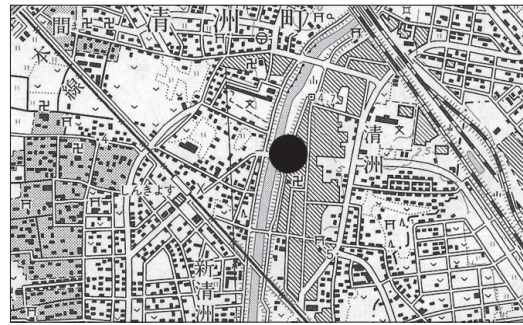


きよ すじょうか まち
清洲城下町遺跡

所在地 西春日井郡清洲町
調査理由 五条川河川改修
調査期間 平成11年12月～12年3月
調査面積 1,700 m²
担当者 春日井 毅・伊藤太佳彦・木川正夫



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 清洲城下町遺跡は五条川中流域に形成された自然堤防と後背湿地上に立地する古代から近世にかけての複合遺跡である。今年度は五条川の左岸、長者橋の北側のA区と南側のB区の調査を行った。

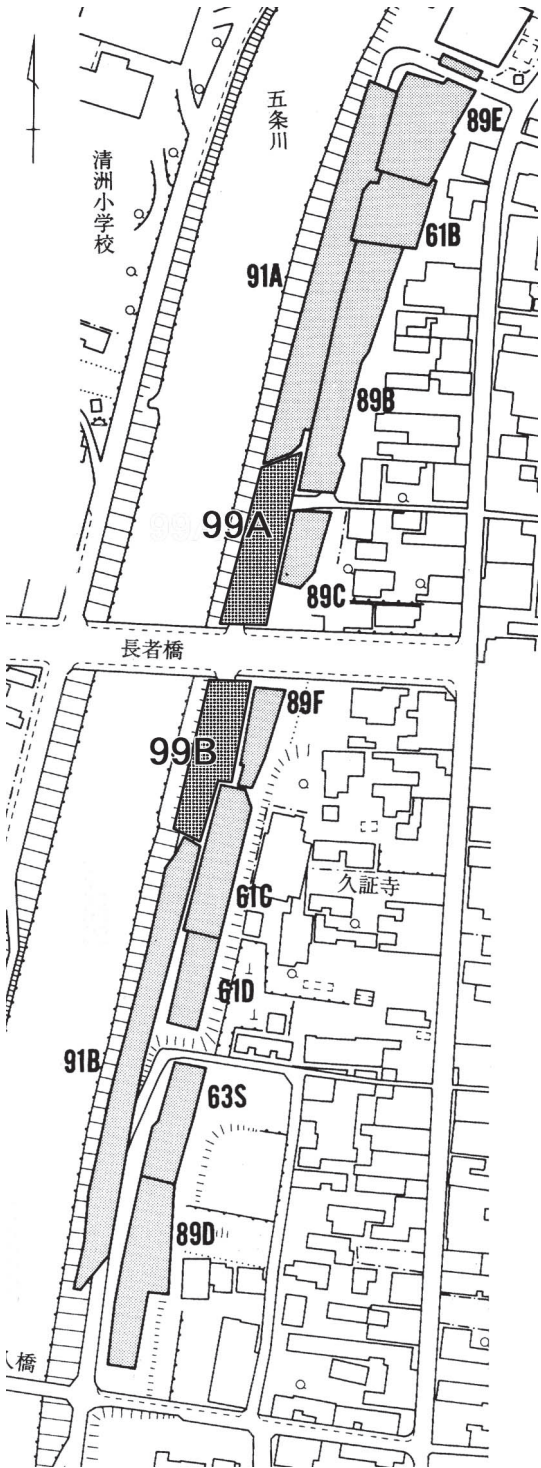
調査の概要 99 A区は本町地区の一番南に位置し、標高2.5 mを第1面、地山の砂層直上を第2面として調査を行った。調査区東側は大きく削り取られた状態になっていて、第1面から約50 cm程低くなっている (S X 01)。S X 01は南側ではクランク状に曲がっており、89 C区で検出されたような畝状遺構が展開する。もともとは城下町後期の遺構が東側部分から89 C区にかけても展開していたものと思われる。

調査区中央には南北方向に溝があり (S D 01 および S D 03)、その両側に井戸や廃棄土坑が展開している。廃棄土坑内からはトリベや銅滓などが多く確認でき、鋳造関係の遺構があったと思われる。第2面ではS D 03に切られる東西方向の溝を3条検出したが、その内の1条は城下町前期の区画溝と考えられ、天正地震の痕跡が確認できた。

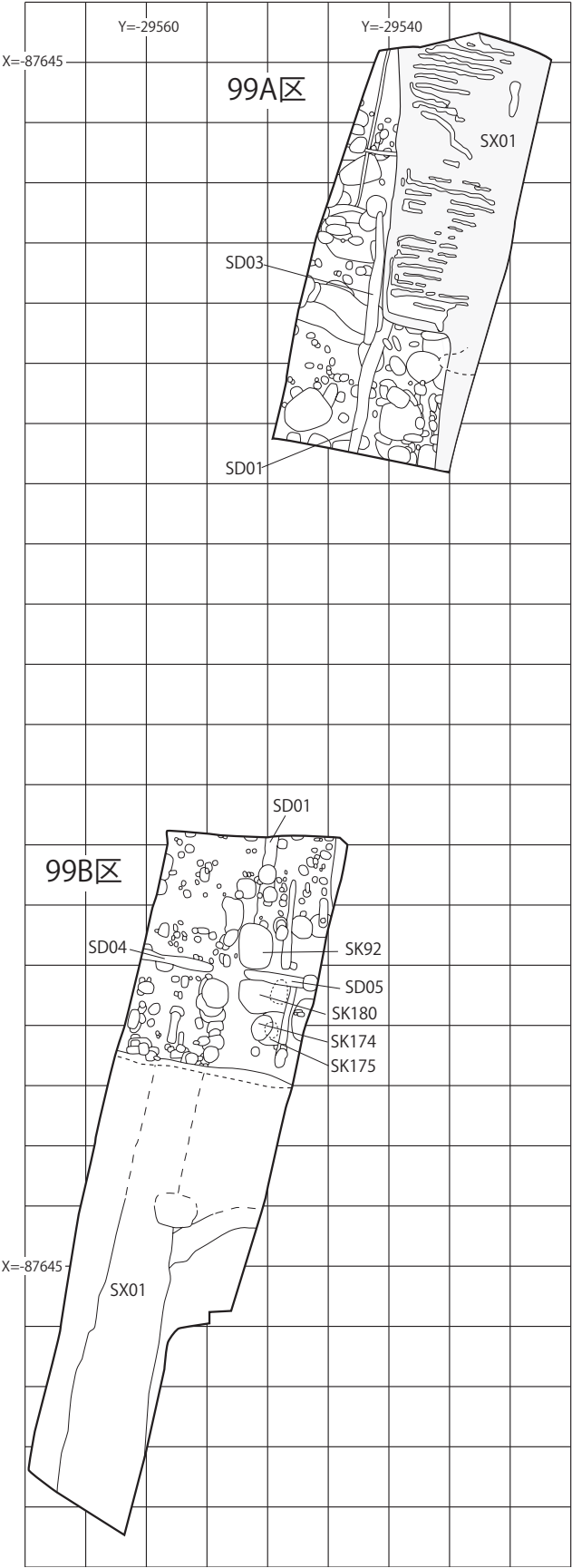
99 B区は南部地区の一番北に位置し、標高2.4 mを第1面、地山のシルト層直上を第2面として調査を行った。調査区の南側には91 B区の北半部と同様に江戸時代以降の整地層が堆積しているが、今回この部分で旧堤防 (S X 01)を確認することができた。一方、調査区北側では城下町後期の遺構を確認できた。南北方向の溝であるS D 01は99 A区のS D 01とつながる溝と考えられるが、これと直交する形で区画溝であるS D 04および05が存在する。S D 04および05の周辺にはやはり井戸や廃棄土坑群が展開し、99 A区と同じような状況がうかがえる。

まとめ 今回の調査区では江戸時代以降と思われる整地層などによって半分近くが削られているものの、城下町後期の遺構群がかなり密に展開している様子を確認することができた。整地層部分についても同様に遺構が展開していたものと考えられ、城下町後期の町屋の状況を復原するうえで重要な情報を提供できたと言えるだろう。さらに整地層部分でも、A区では89 C区の畝状遺構との関連を、B区では旧堤防の存在を確認できたことは大きな成果であった。

(伊藤太佳彦)



第1図 調査区位置図 (1 : 2,500)



第2図 遺構図